

令和2年10月27日
福井県教育庁

令和2年度 第1回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

- 「教育に関する大綱」、「教育振興基本計画」の内容を、校長・教頭・管理職だけでなく、現場の先生に十分理解してもらうことで、引き出す・楽しむ教育の実現につながる
- 「個性を引き出し」、「学びを楽しむ」ためには、興味を持てるか、好きになれるかが重要。そのきっかけやふれあいのチャンスを子どもに提供することが大切
- ICTに苦手意識がある先生もいる。支援員や研修の場を保障して、授業に活用できるようにすることが必要。ICTを使った授業のアイデアを実現するサポートをして、先生の個性を引き出すと、今までと違う授業ができて可能性が広がる
- いい授業を発表・共有して、さらにブラッシュアップして活かしていくことが重要。まずはICTに慣れることが必要だが、その次にICTをどう活かしていくかを考えていかないといけない
- 小中学校の先生にも福井で頑張っている社長の話を聞いてもらうことで、民間で今求められている力を知り授業に活かすことができるし、視野を広くいろいろな個性を活かすことができるのではないか
- 子どもが何でも言える、意見を認めてもらえる土壌を作ることが大切。手を挙げて意見を言うのではなく、タブレットで皆の意見を集約することで、積極的に発言できない子の意見や、周りを見て答えていた子の、自分の意思による意見を見ることができる
- 学習アプリやデジタル教材は費用がかかる。また、コロナ禍で家庭でのネット環境やモバイルルーターの貸出し、通信費の負担なども課題になっていくので、財政が苦しい中だが予算も考えてほしい
- コロナ禍による環境の変化を、惰性でやっていたことの見直しや、教職員の意識改革の機会と捉えて、新たな取組みを進めてほしい